

## 「このTシャツはどこからくるの？」

インドのコットン生産現場での児童労働の実態について考えるワークショップを、各クラスで行いました。初めてのワークショップで戸惑いながらも、グループに分かれて活発に意見交換をすることができました。

### 並べ替えパズル「理解しよう！コットン(綿)が服になるまでのプロセス」

まず最初は並べ替えパズルです。コットンの種まきからはじめて、紡いで布にし、それが洋服となって日本に輸入され、私たちが購入するまでのプロセスをパズルで確認しました。



講師は昨年に引き続き成田由香子さん



どうやって服ができるのかな？

### ロールプレイ「想像しよう！ファッションに係わる人たちの気持ち」

次の行ったのは、ロールプレイです。コットン畑で働く少女ラクシュミさん、子どもを働かせ、自分もはたらいっている母親のティムラマさん、コットン農家のマヘシュさん、縫製会社社長のワンさん、アパレル会社社長の服部さん、洋服の購入者である大学生のわたこさんの6役に分かれて、セリフカードを読みながら、その気持ちを考えて、ディスカッションを始めます。



ワンさん役



マヘシュさん役



服部さん役



ラクシュミさん役



ティムラマさん役



わたこさん役

## 「児童労働を解決するために何ができるか」

農業の使いすぎでしょうか、ラクシュミさんがコットン畑で働いた後に調子が悪くなり、呼吸困難のためになくなってしまいました。6役の人たちはどう感じたのでしょうか。そして、このようなことが繰り返されないためには、どうしたらよいのでしょうか。みなで話し合いました。



僕はこう思います。



自分たちができることを発表



意見を書き出して・・・



児童労働にレッドカード！

## 生徒の感想から

- ・「学校に行きたいけど、家族の為に働かなければならない」と聞いて、自分と同じ年ぐらいの子が1日中働いているということにとっても悲しかったです。
- ・学校へ行きたくても行けない子や農業の影響で体調をくずす子など、私たちがあたりまえだと思うことさえできないということを知りました。
- ・子どもには、自由に選ぶ権利があるし、その状況もしっかり家族や知り合いの人に伝え、「子どもの自由」についてしっかり理解し、向き合っていこうと思いました。
- ・全ての国々が協力して差のない世界になれるように周りの人を動かせるように努力していきます。
- ・今回私は、まだまだ知識不足だと感じたので、児童労働について、今の自分に何ができるか、調べ、考えたいと思いました。